

## 評価・評定について

## 1 「評価・評定」とは

## (1) 評価

学習指導要領に示す各教科の目標に合わせて学習状況を観点ごとに（「観点別学習状況」という）A、B、Cの3段階で表したものです。

## (2) 評定

各教科の目標に合わせてそれぞれの「観点別学習状況」を総合的に判断し、1～5の5段階で表したものです。

## 2 「評価」の出し方

令和3年度よりすべての教科が同じ3つの観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点別学習状況をA、B、Cの3段階で表しています。それぞれの観点で目標に対して各自がどの程度達成できたかを表す絶対評価です。そのため集団の中での相対的な位置を表すものではありません。

評価の方法は、定期考査（中間、期末）や小テストなどのほか、授業中の態度や発言など、宿題提出状況、ノート点、レポート点、作品の完成度などを通して、教科の特質や指導内容に合わせて行います。

原則として、観点別の目標の達成度に応じて、観点別評価をA、B、Cの3段階で表します。

## 【観点別学習状況の評価の基準】

	達成度	評価
十分満足できると判断されるもの	100%～80%	A
おおむね満足できると判断されるもの	80%未満～50%	B
努力を要すると判断されるもの	50%未満	C

## 3 「評定」の出し方

各観点別学習状況を総括し、5、4、3、2、1の5段階で表します。目標に対して各自がどの程度達成できたかを示す絶対評価です。そのため集団の中での相対的な位置を表すものではありません。基本的には、3つの観点別学習状況の「評価」を総合し、「評定」の達成度を表します。なお教科の特性上、学期により観点の比率が各教科により多少異なることがあります。

原則として、目標への達成度に応じて、評定を5、4、3、2、1の5段階で表します。

## 【評定の基準】

	達成度	評定
十分満足できると判断されるもののうち特に程度の高いもの	100%～90%	5
十分満足できると判断されるもの	90%未満～80%	4
おおむね満足できると判断されるもの	80%未満～50%	3
努力を要すると判断されるもの	50%未満～20%	2
一層努力を要すると判断されるもの	20%未満	1

## 4 総合的な学習の時間の記録と評価

学習の様子や成果を観点に沿って、文章で評価しています。

## 5 特別の教科 道徳の記録と評価

学習の様子や成果を観点に沿って、文章で評価しています。